



1. 総論

- 欧州・大西洋及びインド太平洋のための戦略的に重要な日NATOのパートナーシップを認識。
- 欧州・大西洋及びインド太平洋の安全保障は相互に関連。強固なNATOは日本にとっても利益。

2. 国際社会が直面する戦略的挑戦

- ウクライナにつき、包括的で公正かつ永続的な平和を達成するための外交努力が重要であることを確認。ルッテ事務総長は、日本によるNATOの「ウクライナのための包括的パッケージ(**CAP**)」信託基金を通じた殺傷性のない装備品等のウクライナへの継続的な供与、特に軍事医療・リハビリ分野の支援への貢献、「対ウクライナ安全保障支援及び訓練組織」への参加に関する日本の意欲を歓迎。
- 拡大する露朝軍事協力を強く非難。中国によるロシアの防衛生産基盤支援を懸念。
- 東・南シナ海での力又は威圧による一方的な現状変更の試みに反対。台湾海峡の平和と安定の重要性を強調。
- 北朝鮮の核・弾道ミサイル計画の進展を強く非難し、CVIDを主張。これらの資金源となる不法な資金調達手段への対処の必要性を強調。拉致問題の即時解決を強く求める。

3. 日NATO協力

- 日本のNATO専任大使の着任及び情報共有体制の強化に向けた取組を歓迎。
- デュアルユース・先端技術の開発及び日NATO標準化を含む防衛産業間の協力の加速化で一致。
- 石破総理は、NATOとインド太平洋パートナーの協力の深化に向け引き続き主導的役割を果たしていく旨述べ、ルッテ事務総長は歓迎。日本が2月に主催した日NATO戦略的コミュニケーション会議を含め、NATOとIP4（日韓豪NZ）との旗艦事業への日本の積極的な貢献に感謝。
- 定期的な対話を維持していくことにコミットする。